

令和6年度(2024年度)用

小学校国語科用

「新編 新しい国語」 年間指導計画作成資料 【1年】

令和6年(2024年)1月版

※単元ごとの配当時数、主な学習活動、評価規準などは、今後変更になる可能性があります。ご了承ください。

東京書籍

「新編 新しい国語」（第1学年）年間指導計画

■「評価の観点及びその趣旨」、「学年別の評価の観点の趣旨」の作成について

単元の指導計画・評価計画の作成に当たっては、各学校の実態に応じて目標に準拠した評価を行うために、学習指導要領に示された教科の目標を踏まえた「評価の観点及びその趣旨」と、学年の目標を踏まえた「学年別評価の観点の趣旨」を作成します。

なお「主体的に学習に取り組む態度」の観点は、教科および学年の目標の(3)のうち、観点別学習状況の評価を通じて見取る部分その内容として整理し、作成します。

小学校国語科の目標と「評価の観点及びその趣旨」

小学校学習指導要領 第2章 第1節 国語「第1 目標」

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)	(2)	(3)
日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

評価の観点及びその趣旨 <小学校 国語>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとしている。

第1学年及び第2学年の目標と「評価の観点の趣旨」

小学校学習指導要領 第2章 第1節 国語「第2 各学年の目標及び内容〔第1学年及び第2学年〕 1 目標」

(1)	(2)	(3)
日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

評価の観点の趣旨 <小学校 国語>第1学年及び第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもっている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをもったりしながら、言葉がもつよさを感じようとしているとともに、楽しんで読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。

■評価規準

【知・技】…「知識・技能」の観点および学習指導要領との対応

【思・判・表】…「思考・判断・表現」の観点および学習指導要領との対応

【主】…「主体的に学習に取り組む態度」の観点

※◎は、重点指導事項に対応する評価規準を示す。

※学習指導要領との対応に示した記号は以下の通り。（「◇言語活動」においても同様）

〔知識及び技能〕(1)..言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)..情報の扱い方に関する事項 (3)..我が国の言語文化に関する事項

〔思考力・表現力・判断力等〕A...話すこと・聞くこと B...書くこと C...読むこと

単元の指導計画・評価計画案

4月教材群		※児童の実態や学校生活の流れに合わせて、学習活動の一つ取り出ししたり、複数を組み合わせたりして、1回当たり5～15分程度で扱う。	
単元・教材 ／想定される10の姿の例	●単元の目標／主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教材や他教科との 合科的・関連的な指導の アイディア
<p>きこえるよ 2時間(読2) 教科書:上巻表紙裏・P.1～7</p> <p>協同性 文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現</p>	<p>●言葉の響きやリズムを楽しみながら、友達といっしょに声を出すことができる。</p> <p>-----</p> <p>1 教師の読み聞かせを聞き、言葉に合わせて体を動かす。 2 動作をつけながら、交互に言ったりみんなで声をそろえたりして言葉の掛け合いを楽しむ。 3 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ◎言葉の響きやリズムなどに注意して音読している。(1)ク</p> <p>【思・判・表】 ・「読むこと」において、読んだ感想を共有している。C(1)カ</p> <p>【主】 ・これまでの経験を生かしながら、積極的に声を出し、言葉の響きやリズムを楽しもうとしている。</p>	<p>・生活科の時間に、お話の中に出てきた生き物や植物を見つける。</p>
<p>よろしくね 1時間(話聞1) 教科書:上巻 P.8～9</p> <p>自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 思考力の芽生え 言葉による伝え合い</p>	<p>●伝え合うために必要なことを選び、自己紹介を友達と楽しむことができる。</p> <p>-----</p> <p>1 教師の自己紹介を聞く。名前を伝える話型を確かめ、名前のほかに伝え合うことを決める。 2 複数の友達と自己紹介をし合う。 3 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っている。(1)オ</p> <p>【思・判・表】 ◎「話すこと・聞くこと」において、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。A(1)ア</p> <p>【主】 ・これまでの経験を生かしながら、積極的に伝え合うために必要なことを選び、自己紹介し合う活動を楽しもうとしている。</p>	<p>・図工の時間に描いた「好きなもの」の絵を見せて、自己紹介をする。 ・生活科の探検活動で、学校で働く複数の先生に会って自己紹介をする。</p>
<p>たのしくかこう 1時間(知技1) 教科書:上巻 P.10～11</p> <p>健康な心と体 自立心 思考力の芽生え 文字等への関心・感覚</p>	<p>●書きやすい姿勢や鉛筆の持ち方を知り、楽しく運筆をすることができる。</p> <p>-----</p> <p>1 教科書の写真を見て、姿勢や手の置き方を確かめる。 2 教科書の唱歌に合わせて体を動かし、鉛筆の持ち方や姿勢を確かめる。 3 直線で構成された絵を書き、運筆に慣れる。 4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ◎平仮名を書いている。(1)ウ</p> <p>【主】 ・これまでの経験を生かしながら、積極的に書きやすい姿勢や鉛筆の持ち方を知り、楽しく運筆をしようとしている。</p>	<p>・書写の時間と併せて、書きやすい姿勢や持ち方について確認する。 ・生活科の時間に、校庭で見つけたものの名前を書くときや、算数の時間に、数字を書くときに、姿勢や筆記具の持ち方に着目させる。</p>
<p>なんていうのかな 2時間(話聞2) 教科書:上巻 P.12～13</p> <p>自立心 社会生活との関わり 思考力の芽生え 言葉による伝え合い</p>	<p>●人と関わるときに大切な言葉を知り、使うことができる。</p> <p>-----</p> <p>1 入学前に、先生や友達、家族などの周りの人と話すときに使っていた挨拶の言葉を発表する。 2 教科書の絵を見て必要な言葉を考え、これから学校生活で使いたい言葉を考える。 3 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ◎身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っている。(1)オ</p> <p>【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。A(1)オ</p> <p>【主】 ・これまでの経験を生かしながら、積極的に人と関わるときに大切な言葉を知り、使おうとしている。</p>	<p>・生活科の探検活動で、学校で働く複数の先生に会ったときに挨拶をする。 ・道徳の時間に、挨拶などについて、教室の約束作りをする。</p>

単元・教材 ／想定される10の姿の例	●単元の目標／主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教材や他教科との 合科的・関連的な指 導のアイデア
<p>こえをとどけよう 1時間(話聞1) 教科書:上巻P.14～15</p> <p>自立心 協同性</p> <p>道徳性・規範意識の芽生え 思考力の芽生え 言葉による伝え合い</p>	<p>●場面に応じた声の大きさを知り、活用することができる。</p> <p>-----</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 二人組と四人組を作って話し、それぞれどのくらいの大きさの声を出していたか考える。 2 教室の前でみんなに話すとき、外で誰かに呼びかけるとき声の大きさと、人の話を聞くとき声の大きさを考える。 3 それぞれの場面における声の大きさを、教科書の動物を例に確認する。 4 それぞれの場面に応じた声の大きさを理解し、実際に声を出して確認する。 5 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や発声に注意して話している。(1)イ <p>【思・判・表】</p> <p>◎「話すこと・聞くこと」において、伝えたい相手に応じて、声の大きさをくふうしている。A(1)ウ</p> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験を生かしながら、積極的に場面に応じた声の大きさを知り、活用しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「よろしくね」で知った友達の名前を呼ぶ。 ・生活科の探検活動で見つけたことについて、みんなの前で話す。 ・朝会などで、人の話を静かに聞く。
<p>もじをかこう 1時間(知技1) 教科書:上巻P.16～17</p> <p>自立心 思考力の芽生え 文字等への関心・感覚</p>	<p>●平仮名を読んだり書いたりし、文字や言葉への関心をもつことができる。</p> <p>-----</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 姿勢や鉛筆の持ち方、文字の始筆と終筆に気をつけて指でのなぞり書きや運筆練習をし、「つ」「く」「し」「へ」「い」「こ」「と」「り」を書く。 2 学習した平仮名8文字を組み合わせてできる言葉を探して書く。 3 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <p>◎平仮名を読み、書いている。(1)ウ</p> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験を生かしながら、積極的に平仮名を読んだり書いたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書写の時間に、水書用紙を活用して始筆や終筆の書き方を体感する。 ・生活科の探検活動で見つけたものの中から、「つ」「く」「し」「へ」「い」「こ」の付く言葉を探す。
<p>あいうえおのうた 2時間(知技2) 教科書:上巻P.18～19</p> <p>健康な心と体 自立心 思考力の芽生え 文字等への関心・感覚 豊かな感性と表現</p>	<p>●姿勢や口形、発声や発音に注意して声を出し、音読することができる。</p> <p>-----</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「あいうえおのうた」と教科書の挿絵をつないで様子を思い浮かべながら音読する。 2 教科書の写真を参考に、「あ」「い」「う」「え」「お」の口形が異なることを確かめる。 3 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <p>◎姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験を生かしながら、積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して声を出し、音読しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の時間に、見つけたものがみんなに伝わるようにはっきりとした声で話す。 ・遠足で、「あいうえおのうた」をみんなで口ずさみながら歩く。
<p>あいうえおのこぼれを あつめよう 3時間(知技3) 教科書:上巻P.20～21</p> <p>自立心 思考力の芽生え 文字等への関心・感覚</p>	<p>●音節と文字との関係に気づき、「あ」「い」「う」「え」「お」の付く言葉を身の回りから集めることができる。</p> <p>-----</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 挿絵と文字や記号などを結び付けながら言葉を声に出し、文字と音節の対応を捉える。 2 教科書の挿絵のほかに、「あ」「い」「う」「え」「お」の付く言葉を集める。 3 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <p>◎音節と文字との関係に気づいている。(1)イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験を生かしながら、積極的に音節と文字との関係に気づき、「あ」「い」「う」「え」「お」の付く言葉を集めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の探検活動で見つけた物の中から、「あ」「い」「う」「え」「お」の付く言葉を探す。
<p>ほんがたくさん 2時間(読2) 教科書:上巻P.22～23</p> <p>自立心 思考力の芽生え 文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現</p>	<p>●読み聞かせなどを聞き、読書に興味をもって、本に親しむことができる。</p> <p>◇読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合う。C(2)イ</p> <p>-----</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入学前に読み聞かせをしてもらったお話の中で、覚えているものなどを発表する。 2 いろいろな本の読み聞かせや紹介を聞いて、思ったことや分かったことを交流する。 3 学校図書館に行き、本棚を見て、気になる本を言い合ったり、実際に開いてみたりする。 4 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。(3)エ <p>【思・判・表】</p> <p>◎「読むこと」において、感じたことや分かったことを共有している。C(1)カ</p> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験を生かしながら、積極的に読み聞かせなどを聞き、読書に興味をもって、本に親しもうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の学校探検で、学校で働く人を探し、学校司書の先生を見つけて話を聞く。 ・生活科の校庭探検の前に、春を題材にした絵本や図鑑などの読み聞かせを聞く。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
4 ～ 5	<p>あめですよ</p> <p>4時間(読4) 教科書:上巻 P.24～29</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉のリズムをとらえて声に出す。(1上「きこえるよ」) 口形を意識して、明瞭な発音で音読する。(1上「あいうえおのうた」) 	<p>●絵と言葉を結び付けて、場面や人物の様子を思い浮かべ、語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけながら音読を楽しむことができる。</p> <p>◇お話の内容や感想を伝え合ったり、演じたりする。C(2)イ</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 雨に関する体験を想起し、全文の音読を聞いて、単元の学習課題をつかむ。 2 絵の人物や擬声語を比べ、様子を想像しながら音読する。 3 音読を発表して聞き合う。動作化したりみんなで読んだりして、音読を楽しむ。 4 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク <p>【思・判・表】</p> <p>◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。C(1)イ</p> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで絵と言葉を結び付けて場面や人物の様子を思い浮かべ、今までの経験や学習を生かして、語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読を楽しもうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の時間に、雨の日の校庭の様子を観察する。
5	<p>ふたとぶた</p> <p>2時間(知技2) 教科書:上巻 P.30～31</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 一文字一音節の基本的な対応を動作化で表す。(1上「あいうえおのことはあつめよう」) 清音と濁音の音を比べながら、場面の様子を思い浮かべる。(1上「あめですよ」) 	<p>●清音、濁音、半濁音の表記と音の違いを理解して、平仮名を読んだり書いたりすることができる。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 教科書の言葉遊び歌を音読して、濁音や半濁音に関心をもち、単元の学習課題をつかむ。 2 清音の語と濁音・半濁音を含む語を比べて読んだり書いたりしながら、濁点や半濁点が付くことで発音や意味が異なることを理解する。 3 身の回りにある濁音・半濁音を含む語を集めて読んだり書いたりする。 4 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話している。(1)イ <p>◎濁音や半濁音の使い方を理解して、平仮名を読み、書いている。(1)ウ</p> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで清音、濁音、半濁音の表記と音の違いを理解し、今までの経験や学習を生かして、平仮名を読んだり書いたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の校内探検や季節探検で、濁音や半濁音を含む言葉を探す。
5	<p>みんなにはなそう</p> <p>4時間(話聞4) 教科書:上巻 P.32～35</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> はっきりとした発声・発音になるよう、口形を意識して話す。(1上「あいうえおのうた」) 相手に聞こえる声の大きさを考えて話す。(1上「こえをとどけよう」) 	<p>●紹介したい事柄を決め、相手に聞こえるように話すことができる。</p> <p>◇紹介したいことを話したり、それを聞いて声に出して確かめたりする。A(2)ア</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 教科書の挿絵や写真を手がかりにして、身の回りで見つけたものをクイズにして発表することに関心をもち、単元の学習課題をつかむ。 2 身の回りで見つけたものを思い浮かべ、クイズにして発表するものを決める。クイズの答えにするための絵をかく。 3 みんなの前でクイズを出したり、友達のクイズを聞いて答えたりする。 4 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア <p>【思・判・表】</p> <p>◎「話すこと・聞くこと」において、相手に応じて、声の大きさを工夫している。A(1)ウ</p> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで紹介したい事柄を決め、今までの経験や学習を生かして、相手に聞こえるように話そうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の時間に、校庭で春探検をして見つけたものを伝える。 ・図工の時間に、校庭で見つけたものの絵を描いて鑑賞し合う。
5	<p>ぶんをつくらう</p> <p>2時間(書2) 教科書:上巻 P36～37</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <p>濁音や半濁音の表記を理解し、正しく読んだり書いたりする。(1上「ふたとぶた」)</p>	<p>●主語と述語との関係に気づき、助詞の「が」を使った文を作ることができる。</p> <p>◇教科書の挿絵や、これまでの経験や学習などをもとにして「○○が△△する。」の文型で文を作る。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 単元の学習課題をつかむ。 2 教科書P.36の文を声に出して読み、助詞「が」を使った文型を知る。 3 助詞「が」の働きを確かめ、教科書の例文を視写する。 4 教科書の挿絵などを参考に、「○○が△△する。」の文を作って書く。 5 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <p>◎文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで主語と述語との関係に気づこうとし、今までの経験や学習を生かして、助詞の「が」を使った文を作ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の校内探検や季節探検で、見つけたものの動きを表す文を作る。 ・生活科の時間に、学校で働く人がしていることを文で伝える。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
5	とんこととん 5時間(読5) 教科書:上巻 P.38～43 既習事項との関連 様子を想像しながら音読を楽しむ。(1上「あめですよ」)	●場面の様子や人物の行動などの内容の大体を捉え、音読を楽しむことができる。 ◇お話を読み、内容や感想などを伝え合ったり演じたりする。C(2)イ 1 題名からお話の内容を想像して興味を持ち、単元の学習課題をつかむ。 2 全文の音読を聞き、誰が出てきたかを確かめ、挿絵を並び替えるなどの活動を通して物語の流れを捉える。 3 人物が言ったことやしたことを確かめ、グループや学級で音読を楽しむ。 4 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク 【思・判・表】 ◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。C(1)イ 【主】 ・進んで場面の様子や人物の行動などの内容の大体を捉え、今までの経験や学習を生かして、音読を楽しもうとしている。	・朝の会や帰りの会で、「とんこととん。おはよう(また明日)。」を挨拶代わりにしてお話の世界を楽しむ。 ・学校図書館等で、ねずみやもぐらが出てくる本を探して読む。
5	「は」をつかおう 1時間(書1) 教科書:上巻 P.44～45 既習事項との関連 ・語と語との続き方に気をつけて文を作る。(1上「ぶんをつくらう」) ・助詞「は」を用いた文章を読む。(1上「とんこととん」)	●助詞の「は」の使い方を理解し、正しく使って文を作ることができる。 ◇「は」と「わ」のどちらを使うのが正しいかを考えて文を作る。 1 単元の学習課題をつかむ。 2 教科書 P.44 の文を声に出して読む。 3 助詞「は」の使い方や表記を確認し、例文を視写する。 4 教科書 P.45 の練習問題に取り組み、「は」と「わ」のどちらを使うのが正しいか選んで文を作り、視写する。 5 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ◎助詞の「は」の使い方を理解して文の中で使っている。また、平仮名を読み、書いている。(1)ウ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ 【主】 ・進んで助詞の「は」の使い方を理解し、今までの経験や学習を生かして、助詞の「は」を正しく使って文を作ろうとしている。	・生活科の校内探検や季節探しで見つけた人やものの様子を表す文を作って書くときに、「は」「わ」のどちらを使うのが正しいかを考える。
5	さとうとしお 4時間(読4) 教科書:上巻 P.46～53 既習事項との関連 ・問いかけたり答えたりする。(1上「みんなにはなそう」) ・助詞の「は」を使った文を読む。(1上「『は』をつかおう」)	●事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉え、分かったことを伝え合うことができる。 ◇説明的な文章を楽しんで読み、分かったことを伝え合う。C(2)ア 1 教材文の題名を確かめ、砂糖と塩について知っていることを出し合い、単元の学習課題をつかむ。 2 全文の音読を聞いたり、音読したりして、全体の問いを押さえる。観点ごとの「問い」を確かめ、その「答え」を探して、砂糖と塩の違いを読み取る。 3 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ 【思・判・表】 ◎「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。C(1)ア 【主】 ・進んで事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉え、今までの経験や学習を生かして、分かったことを伝え合おうとしている。	・給食指導に活用する。
5	「を」「へ」をつかおう 2時間(書2) 教科書:上巻 P.54～55 既習事項との関連 語と語との続き方に気をつけて文を作る。(1上「ぶんをつくらう」)「『は』をつかおう」)	●助詞「を」「へ」の使い方を理解して、一文の意味が明確になるように文を書くことができる。 ◇「を」と「お」、「へ」と「え」のどちらを使うのが正しいかを考えて文を作る。 1 単元の学習課題をつかむ。 2 例文「ほしをみる。」「やまへいく。」を声に出して読む。 3 助詞「を」「へ」の使い方や表記を知り、例文を視写する。 4 教科書 P.54・55 の練習問題に取り組み、「を」と「お」、「へ」と「え」のどちらを使うのが正しいか選んで文を作り、視写する。 5 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ◎助詞の「を」及び「へ」の使い方を理解して文の中で使っている。また、平仮名を読み、書いている。(1)ウ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ 【主】 ・進んで助詞の「を」「へ」の使い方を理解し、今までの経験や学習を生かして、助詞の「を」「へ」を正しく使って文を作ろうとしている。	・生活科の時間に学校で働く人のしていることを文で書くときに、「を」と「お」、「へ」と「え」のどちらを使うのが正しいかを考える。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
6	<p>きいてつたえよう</p> <p>2時間(話聞2) 教科書:上巻 P.56～57</p> <hr/> <p>既習事項との関連 相手に聞こえる声の大きさを考えて話す。(1上「こえをとどけよう」)</p>	<p>●話し手が知らせたいことを落とさないように集中して聞き、グループの友達に正しく伝えることができる。</p> <p>◇友達が見つけた言葉を聞いて、グループのみんなに正しく伝える。</p> <hr/> <p>1 単元の学習課題をつかむ。 2 活動の進め方を知り、聞き方や伝え方について考える。 3 友達が見つけた言葉を聞き、グループに戻って伝え合う。 4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ <p>【思・判・表】</p> <p>◎「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞いている。A(1)エ</p> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで話し手が知らせたいことを落とさないように集中して聞き、今までの経験や学習を生かして、グループの友達に正しく伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 係活動のときに、聞いた内容をグループで伝え合う。
6	<p>ねことねっこ</p> <p>2時間(知技2) 教科書:上巻 P.58～59</p> <hr/> <p>既習事項との関連 一文字一音節の基本的な対応を理解し、動作化する。(1上「あいうえおのことばをあつめよう」「ふたとぶた」)</p>	<p>●促音の表記と音節の対応を理解し、促音表記の平仮名を読んだり書いたりすることができる。</p> <hr/> <p>1 単元名に着目させて「ねこ」と「ねっこ」を比べ、単元の学習課題をつかむ。 2 視覚化や動作化を使って、促音の音節と文字との対応を理解する。教科書 P.58・59 の言葉を動作化しながら読んだり書いたりする。 3 教科書の言葉遊び歌を動作化しながら読んだり書いたりする。また、身の回りにある促音を含む語を探して、動作化しながら読んだり書いたりする。 4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音節と文字との関係に気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ ◎促音の表記を理解して、平仮名を読み、書いている。(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで促音の表記と音節の対応を理解し、今までの経験や学習を生かして、促音表記の平仮名を読んだり書いたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の時間に観察したことを書くとき、動作化をしながら促音の表記を確かめる。
6	<p>ことばあそび</p> <p>3時間(知技3) 教科書:上巻 P.60～61</p> <hr/> <p>既習事項との関連 ・濁音や半濁音の表記を理解して読み書きする。(1上「ふたとぶた」) ・促音の表記を理解して読み書きする。(1上「ねことねっこ」)</p>	<p>●言葉遊びに親しみながら、平仮名を読んだり書いたりすることができる。</p> <hr/> <p>1 これまでにたくさんの平仮名を学習してきたことを振り返り、単元の学習課題をつかむ。 2 教科書のしりとりや言葉見つけをしながら、その決まりを理解するとともに、平仮名の読み書きに習熟する。 3 しりとりや言葉見つけの問題を作って、出題し合うことを楽しむ。 4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。(1)オ ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで言葉遊びに親しみ、今までの経験や学習を生かして、平仮名を読んだり書いたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館で、しりとりなどのことばあそびを題材とした本を探して読む。
6	<p>あひるのあくび</p> <p>3時間(知技3) 教科書:上巻 P.62～65</p> <hr/> <p>既習事項との関連 母音の口形を確かめて、明瞭な発音・発声で話す。(1上「あいうえおのうた」)</p>	<p>●音節と文字との関係などに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意し、詩を音読したり五十音図を声に出したりすることができる。</p> <hr/> <p>1 「あひるのあくび」を音読し、単元の学習課題をつかむ。 2 いろいろな音読の仕方を楽しみ、「あひるのあくび」の詩の仕組みを理解する。 3 教科書 P.64・65 の五十音を音読したり視写したりして、その特徴に気づく。 4 「あひるのあくび」をまねて詩を作る。 5 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>◎音節と文字との関係などに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 語句のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで音節と文字との関係などに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意し、今までの経験や学習を生かして、詩を音読したり五十音図を声に出したりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の時間に、実際に体を動かして表現する。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
6	<p>のばすおん</p> <p>2時間(知技2) 教科書:上巻 P.66～67</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・促音を動作化して文字と音節の対応を理解して読み書きする。(1上「ねことねっこ」) ・五十音図の特徴を理解して、平仮名を正しく読み書きする。(1上「あひるのあくび」) 	<p>●長音の表記と音節の対応を理解し、長音表記の平仮名を読んだり書いたりすることができる。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 「おばさん」と「おばあさん」を比べ、単元の学習課題をつかむ。 2 五十音表の特徴を想起したり、口形を手がかりにしたりして長音の文字と音節の対応の原則や例外を知る。長音の視覚化と動作化を使って、教科書 P.66・67 の言葉を動作化しながら声に出す。 3 教科書の言葉遊び歌を動作化しながら音読したり書いたりする。また、身の回りの長音を含む語を探して、動作化しながら読んだり書いたりする。 4 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音節と文字との関係に気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ ◎長音の表記を理解して、平仮名を読み、書いている。(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで長音の表記と音節の対応を理解し、今までの経験や学習を生かして、長音表記の平仮名を読んだり書いたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の時間に、観察して見つけたことを記録するとき、動作化をしたり、伸ばして残る音を確かめたりして、表記を見直す。
6	<p>どうやってみをまもるのかな</p> <p>6時間(読6) 教科書:上巻 P.68～75</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事柄の順序などを考えながら読み、説明した文章の内容の大体を捉える。(1上「さとうしお」) 	<p>●事柄の順序を考えながら内容の大体を捉え、分かったことを伝え合うことができる。</p> <p>◇説明的な文章を読み、分かったことや考えたことを伝える。C(2)ア</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 ヤマアラシ、アルマジロ、スカクノのふだんの姿の挿絵を見て、身の守り方を予想し、単元の学習課題をつかむ。 2 全文を音読して、教材文とてびきを区別するとともに、教材文のおおまかな構成を捉える。 3 教科書 P.75 の問いを手がかりにして、それぞれの動物の体の特徴と身の守り方を読み取り、予想と比べる。 4 いちばん気になる動物とその理由などを話し、感想を共有する。 5 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ <p>【思・判・表】</p> <p>◎「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体をとらえている。C(1)ア</p> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉え、今までの経験や学習を生かして、分かったことを伝え合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科で観察した生き物について、絵本や図鑑などで調べ、説明文と似た文章を作ってみる。
6	<p>いしやといしゃ</p> <p>2時間(知技2) 教科書:上巻 P.76～77</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・促音の表記を理解して、読み書きする。(1上「ねことねっこ」) ・長音の表記を理解して、読み書きする。(1上「のばすおん」) 	<p>●拗音、拗長音及び拗促音の表記と音節の対応を理解して、拗音、拗長音及び拗促音表記の平仮名を読んだり書いたりすることができる。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 単元名に着目させて「いしや」と「いしゃ」を声に出して比べ、単元の学習課題をつかむ。 2 視覚化や動作化を使って、拗音の音節と文字との対応を理解する。また、教科書 P.76 の三角の図を手がかりにして、拗音のイメージをつかむ。 3 これまで学習してきた特殊音節のルールを振り返り、拗長音と拗促音の発音と表記を理解する。 4 教科書の言葉遊び歌を動作化しながら読んだり書いたりする。また、身の回りにある拗音を含む語を探して、動作化しながら読んだり書いたりする。 5 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音節と文字との関係に気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ ◎拗音、拗長音、拗促音の表記を理解して、平仮名を読み、書いている。(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで拗音、拗長音及び拗促音の表記と音節の対応を理解し、今までの経験や学習を生かして、拗音、拗長音及び拗促音表記の平仮名を読んだり書いたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の時間に、観察して見つけたことを記録するときなど、動作化をして、表記を確かめる。 ・生活科などの時間に、拗音を含む語が出る際、教師が口頭で伝え、児童が聴写する。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
6	<p>こんなことしたよ</p> <p>5時間(書5) 教科書:上巻 P.78～81</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 語と語との続き方に気をつけて文を作る。(1上「ぶんをつくろう」) 助詞「は」「へ」「を」の使い方を理解する。(1上「『は』をつかおう」「『を』『へ』をつかおう」) 特殊音節と文字との対応を理解する。(1上「ねことねっこ」「のぼすおん」「いしやといしや」) 	<p>●語と語や文と文との続き方に注意し、経験したことを伝える文章を書くことができる。</p> <p>◇経験したことを伝える文章を書く。B(2)ア</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 単元の学習課題をつかむ。 学校で経験したことの中から知らせたいことと知らせたい人を選び、様子が伝わるように文章を書く。書き終わったら声に出して読み返す。 書いた文章を読み合い、よいところを見つけて伝え合う。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ <p>【思・判・表】</p> <p>◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意している。B(1)ウ</p> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで語と語や文と文との続き方に注意し、今までの経験や学習を生かして、経験したことを伝える文章を書くこととしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科で観察して見つけたことを記録する。
6 ～ 7	<p>おおきなかぶ</p> <p>6時間(読6) 教科書:上巻 P.82～93</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 語や文のまとまりに気をつけて音読しながら、様子を思い浮かべてお話を楽しむ。(1上「とんことん」) 	<p>●場面の様子や登場人物の行動などの内容の大体を捉え、音読を楽しむことができる。</p> <p>◇お話を読み、内容や感想などを伝え合ったり演じたりする。C(2)イ</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 全文の範読を聞き、自分でも音読をする。音読発表会を開くことを知り、単元の学習課題をつかむ。 話の順序を確かめる。 五か所の「ぬけません。」とその前に付く言葉や、繰り返される「うんとこしょ、どっこいしょ。」の違いに着目して想像を広げる。 グループで音読の練習をする。 グループで音読発表を行う。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク <p>【思・判・表】</p> <p>◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体をとらえている。C(1)イ</p> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで場面の様子や登場人物の行動などの内容の大体を捉え、今までの経験や学習を生かして、音読を楽しむこととしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食指導に活用する。 学校図書館で、教科書 P93 で紹介されている本を探して読む。
7	<p>としょかんはどんなところ</p> <p>1時間(知技1) 教科書:上巻 P.94～95</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせを聞いた、図書館の本棚を見たりして、本に関心を持つ。(1上「ほんがたくさん」) 	<p>●学校図書館を利用して読書に親しみ、図書館を活用することができる。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 学校図書館について知っていることを出し合い、単元の学習課題をつかむ。 学校図書館に行って本棚などを見て回り、知っていることや気づいたことなどを出し合う。使い方や過ごし方を考えてルールを知る。 読みたい本を探して学校図書館で読む。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <p>◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ</p> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで学校図書館を利用して読書に親しみ、今までの経験や学習を生かして、図書館を活用しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の時間に、観察した植物や生き物について知るために、みんなで学校図書館に行き、図鑑や絵本を探して読む。
7	<p>ことばあそびうたをつくろう</p> <p>5時間(書5) 教科書:上巻 P.96～99</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 語のまとまりに気をつけて、様子を思い浮かべながらリズムよく音読する。(1上「あめですよ」) 	<p>●身の回りのものの音や様子を表す言葉を見つけ、言葉遊び歌を作ることができる。</p> <p>◇言葉遊び歌を作り、感じたことや想像したことを書いて友達と共有する。B(2)ウ</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 詩「たべもの」を音読し、単元の学習課題をつかむ。 身の回りのいろいろなものの音や様子を思い浮かべて、擬声語・擬態語で表してみる。 一人一行ずつ作り、グループでつないで、自分たちの「ことばあそびうた」を作る。 「ことばあそびうた」発表会を開く。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。(1)オ 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク <p>【思・判・表】</p> <p>◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。B(1)ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合っている。B(1)オ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、必要な事柄を集めたり確かめたりして、言葉遊び歌を作ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の時間に動物や植物と触れ合い、感じた様子や聞いた音を擬態語や擬声語で表してみる。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
7	<p>かたかなをみつけよう</p> <p>2時間(知技2) 教科書:上巻 P.100~101</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平仮名五十音と濁音、半濁音の表記を確認する。(1上「あひるのあくび」「ふたとぶた」) ・特殊音節と文字との対応を理解する。(1上「ねことねっこ」「のばすおん」「いしやといしや」) 	<p>●片仮名で書く言葉を見つけ、片仮名を読んだり書いたりすることができる。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 単元の学習の見直しを持つ。 2 絵の中に描かれているものの言葉を挙げ、片仮名で書く言葉があることを理解する。 3 身の回りにある片仮名で書く語を集めて読んだり書いたりする。 4 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <p>◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文の中で使っている。(1)ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。(1)オ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで片仮名で書く言葉を見つけ、今までの経験や学習を生かして、片仮名を読んだり書いたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の時間に、観察したものを書くときに片仮名を使って表記する。
7	<p>えにつきをかこう</p> <p>6時間(書6) 教科書:上巻 P.102~105</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語と語との続き方に気をつけて文を作る。(1上「ぶんをつくらう」「こんなことしたよ」) ・助詞「は」「へ」「を」の使い方を理解する。(1上「『は』をつかおう」「『を』を『へ』をつかおう」) ・特殊音節と文字との対応を理解する。(1上「ねことねっこ」「のばすおん」「いしやといしや」) ・片仮名の読み方や書き方を知る。(1上「かたかなをみつけよう」) 	<p>●伝えたいことを明確にして必要な事柄を集め、絵日記を書くことができる。</p> <p>◇日々の出来事について、伝えたいことを絵日記に書く。B(2)イ</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 体験したことを絵と文章で絵日記にかき、みんなで読み合うことに意欲を持ち x、単元の学習課題をつかむ。 2 教科書の例を読んで、絵日記に書く要素を知り、その日にあった出来事を思い出して、絵日記に書く題材を探す。国語の授業が、午前中(早い時間帯)の場合は、前日の出来事を振り返ってもよいことにする。 3 書くことを決めて絵を描き、文章を書く。書き終えたら声に出して読み返す。 4 友達と読み合い、よいところを伝え合う。 5 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ <p>【思・判・表】</p> <p>◎「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア</p> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで伝えたいことを明確にして必要な事柄を集め、今までの経験や学習を生かして、絵日記を書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図工の時間に、行事を思い出して心に残ったことを絵に描き、文章を添える。
9	<p>あるけあるけき</p> <p>3時間(読3) 教科書:上巻 P.106~109</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語のまとまりに気をつけて、様子を思い浮かべながらリズムよく音読する。(1上「あめですよ」) ・明瞭な発音に気をつけながら言葉のリズムを楽しんで音読する。(1上「あひるのあくび」) 	<p>●詩の内容と自分の体験とを結び付けて感想を持ち、語のまとまりや言葉の響きを楽しみながら音読することができる。</p> <p>◇詩を音読する。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 二つの詩の範読を聞き、単元の学習課題をつかむ。 2 詩「あるけあるけ」について、繰り返しや比喩表現を楽しみ、動作化を取り入れるなど工夫して音読する。 3 詩「き」について、比喩表現を楽しみ、動作化を取り入れるなど工夫して音読する。 4 二つの詩から好きなほうを選び、グループで練習して、音読を発表する。 5 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク <p>【思・判・表】</p> <p>◎「読むこと」において、詩の内容と自分の体験とを結び付けて感想を持っている。C(1)オ</p> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで詩の内容と自分の体験とを結び付けて感想を持ち、今までの経験や学習を生かして、語のまとまりや言葉の響きを楽しみながら音読しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠足のとき、「あるけあるけ」をみんなで声に出しながら歩く。 ・生活科の時間に、植物と触れ合う際に「き」を声に出しながら様子を想像する。 ・体育の時間に、実際に体を動かして表現する。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
9	<p>はなしたいなききたいな</p> <p>5時間(話聞5) 教科書:上巻P.110～113</p> <hr/> <p>既習事項との関連 ・相手や場に応じた声の大きさを考える。(1上「こえをとけよう」) ・発表することを決めて、みんなの前で話す。(1上「みんなにはなそう」) ・経験したことから伝えたいことを決めて文章を書く。(1上「こんなことしたよ」「えにっきをかこう」)</p>	<p>●伝えたい話題を決めて必要な事柄を選び、夏休みに経験したことを伝え合うことができる。</p> <p>◇報告したいことをみんなの前で話したり、友達の話聞いて感想を述べたりする。A(2)イ</p> <hr/> <p>1 夏休みの思い出を振り返り、単元の学習課題をつかむ。</p> <p>2 みんなに話したいことを選び、教科書の例をまねて話の組み立てを考える。</p> <p>3 グループの中で発表し合う。グループを変えて繰り返し発表し合う。聞き手は感想を述べたり質問したりする。</p> <p>4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア <p>【思・判・表】</p> <p>◎「話すこと・聞くこと」において、経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。A(1)ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想を持っている。A(1)エ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで伝えたい話題を決めて必要な事柄を選び、今までの経験や学習を生かして、夏休みに経験したことを伝え合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の後に、それぞれの思い出を発表し合う。 生活科の時間に、季節探をして見つけたことや感じたものについてみんなの前で発表する。
9	<p>かぞえうた</p> <p>6時間(知技3書3) 教科書:上巻P.114～117</p>	<p>●数詞や漢数字の使い方を理解し、「かぞえうた」を作ろうとしている。</p> <p>◇「かぞえうた」を音読したり、身の回りの物を数えたりする。</p> <hr/> <p>1 教科書 P.114～115 の挿絵に描かれている物の数を数えて、数詞に関心をもつ。「かぞえうた」を音読して、単元の学習課題をつかむ。</p> <p>2 漢数字「一」「二」「三」の書き方や読み方を知り、「かぞえうた」の型をまねて学級で「一」「二」「三」の「かぞえうた」を作って書く。</p> <p>3 漢数字「四」～「十」の書き方や読み方を知り、好きな行(数)を選んで「かぞえうた」を作り、紹介し合う。</p> <p>4 自分が作った行と、学級で作った行や友達が作った行をつないで「一」～「十」の「かぞえうた」を完成させて音読する。</p> <p>5 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書いている。(1)エ ◎身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。B(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで数詞や漢数字の使い方を理解し、今までの経験や学習を生かして、「かぞえうた」を作ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の時間に観察をして数を数えるとき、どんな数詞を使うか考える。 算数の授業で学習した算用数字と照合させ、基本的には横書きの際には算用数字、縦書きの際には漢数字を使用することを学ばせる。
9	<p>かいがら</p> <p>6時間(読6) 教科書:上巻P.118～125</p> <hr/> <p>既習事項との関連 人物の行動を具体的に想像して、音読する。(1上「おおきなかぶ」)</p>	<p>●場面の様子や登場人物の行動などの内容の大体を捉え、登場人物になったつもりで演じることができる。</p> <p>◇お話を読み、内容や感想などを伝え合ったり演じたりする。C(2)イ</p> <hr/> <p>1 全文の範読を聞いて内容の大体を捉え、単元の学習課題をつかむ。</p> <p>2 登場人物の行動や会話から話の展開を読み取り、感想を伝え合う。</p> <p>3 「くまのこ」と「うさぎのこ」に分かれて友達同士やグループで読み合い、好きな人物になりきって楽しむ。</p> <p>4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 語のまとまりに気をつけて音読している。(1)ク <p>【思・判・表】</p> <p>◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。C(1)エ</p> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで場面の様子や登場人物の行動などの内容の大体を捉え、今までの経験や学習を生かして、登場人物になったつもりで演じようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 図工の時間に、友達に渡したい貝殻の絵を描いて交流する。 教科書P125で紹介されている本を学校図書館で探して読む。
9	<p>かんじのはなし</p> <p>6時間(知技3書3) 教科書:上巻P.126～129</p> <hr/> <p>既習事項との関連 漢数字の読み方や書き方を知る。(1上「かぞえうた」)</p>	<p>●漢字の成り立ちを理解し、学習した漢字を使った文を考えることができる。</p> <p>◇漢字を使って文を作る。</p> <hr/> <p>1 単元の学習課題をつかむ。</p> <p>2 「かんじのはなし」を読んで、漢字七字の成り立ちを知り、正しく書く。</p> <p>3 教科書P.129の絵の部分を漢字に書き換える。学習した漢字を使った文を考える。</p> <p>4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>◎学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文の中で使っている。(1)エ</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで漢字の成り立ちを理解し、今までの経験や学習を生かして、学習した漢字を使った文を考えようとしている。 	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
9 ～ 10	おはなしをようう サラダでげんき 9時間(読9) 教科書:下巻 P.5～19 【言葉の力】 だれがどんなことをしたかを たしかめる ----- 既習事項との関連 場面の様子に着目し、人物 の行動を想像しながら読む (1上「おおきなかぶ」)	●誰が出てきて、どんなことをしたかを確かめ ながら読むことができる。 ◇お話を読み、登場人物に手紙を書く。C(2)イ ----- 見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通し を持つ。 取り組む 2 「サラダでげんき」を読み、どんな動物がど んな順で出てきたかを確かめる。 3 登場人物に手紙を書く。 振り返る 4 物語に誰が出てきて、どんなことをしたか を振り返り、身につけた「言葉の力」を確か め、これからの学習に生かそうという意識 を高める。	【知・技】 ・平仮名及び片仮名を読み、書してい る。(1)ウ ・事柄の順序など情報と情報との関係 について理解している。(2)ア 【思・判・表】 ◎「読むこと」において、場面の様子や 登場人物の行動など、内容の大体を 捉えている。C(1)イ 【主】 ・進んで場面の様子や人物の行動な ど、内容の大体を捉え、学習の見通し を持って登場人物に思いや考えを伝 えようとしている。	
10	かたかなをかこう 3時間(知技1書2) 教科書:下巻 P.20～23 ----- 既習事項との関連 身の回りにある片仮名で書 かれた言葉に気づく(1上「か たかなをみつけよう」)	●身近なもののから片仮名で書く言葉を集め て、正しく読んだり書いたりすることができ る。 ----- 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通し を持つ。 2 片仮名の書き方を知り、書く練習をする。 3 身近なものの中から片仮名で書かれた言 葉を集める。その言葉を使って文を作り、 交流する。 4 学習を振り返り、片仮名の書き方につい ての理解を確かめる。	【知・技】 ◎片仮名を読み、書くとともに、文や文 章の中で使っている。(1)ウ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語と の続き 方に注意している。B(1)ウ 【主】 ・進んで片仮名の書き方について理解 し、学習課題に沿って、片仮名を文や 文章の中で使おうとしている。	
10	一ねんせいのほんだな 2時間(知技2) 教科書:下巻 P.24～29	●読書に親しみ、多様な本を選んだり読ん だりすることができる。 ----- 1 単元の学習の見通しを持つ。 2 P28・29 の読書体験文を読む。 3 「一ねんせいのほんだな」や P28・29 で紹 介している本などを手がかりにして、読み たい本を探して読む。	【知・技】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があるこ とを知っている。(3)エ 【主】 ・進んで読書に親しみ、今までの学習を 生かして、多様な本を読もうとしてい る。	
10	なにに見えるかな 6時間(話聞6) 教科書:下巻 P.30～35 【言葉の力】 はなしをたのしくつなぐ ----- 既習事項との関連 報告したいことをみんなの前 で話す。(1上「はなしたいな ききたいな」)	●思ったことを話したり聞いたりして、楽しく話 をつなぐことができる。 ◇質問したり応答したりしながら、グループで 話し合う。A(2)イ ----- 見通す 1 既習事項を確かめ、単元の見通しを持 つ。 取り組む 2 先生と話す。 3 友達と話す。 振り返る 4 話を楽しくつなぐために、どんなことに気 をつけたかを振り返り、身につけた「言葉 の力」を確かめ、これからの学習に生かそ うという意識を高める。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、 経験したことを伝える働きがあることに 気づいている。(1)ア 【思・判・表】 ◎「話すこと・聞くこと」において、互いの 話に関心を持ち、相手の発言を受け て話をつないでいる。A(1)オ 【主】 ・進んで話を楽しくつなぎながら、学習 の見通しを持って質問したり応答した りして、グループで話し合おうとしてい る。	・お話を読んで 思ったことを話 す。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
10	<p>よう日と日づけ</p> <p>3時間(知技2書1) 教科書:下巻 P.36～37</p> <hr/> <p>既習事項との関連 漢数字の書き方を知る(1上 「かぞえうた」)</p>	<p>●曜日と日付を表す言葉を理解し、漢字を使 って正しく読み書きすることができる。</p> <hr/> <p>1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通し を持つ。</p> <p>2 曜日と日付を表す言葉を理解し、漢字を 使って正しく読み書きする。</p> <p>3 カレンダーを使って曜日と日付を読んだり 、曜日と日付を含んだ文を書いたりする。 。</p> <p>4 学習を振り返り、曜日と日付を表す言葉に ついての理解を確かめる。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年に配当されている漢字を読ん だり、文や文章の中で使ったりしてい る。(1)エ ◎身近なことを表す語句の量を増すとと もに、言葉には意味による語句のまと まりがあることに気づき、語彙を豊かに している。(1)オ <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、語と語との続き方 に注意している。B(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで曜日や日付を表す言葉を理解 し、学習課題に沿って、曜日や日付を 表す言葉を文の中で正しく使おうとし ている。 	
10	<p>はっけんしたよ</p> <p>9時間(書9) 教科書:下巻 P.38～41</p> <p>【言葉の力】 よく見てかく</p>	<p>●物の様子をよく見て、文章を書くことがで きる。</p> <p>◇観察したことを記録する。B(2)ア</p> <hr/> <p>見通す</p> <p>1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通し を持つ。</p> <p>取り組む</p> <p>2 「はっけんメモ」を書く。</p> <p>3 様子を伝える文章を書く。</p> <p>振り返る</p> <p>4 読む人に様子が伝わるように、どんなこと を書いたかを振り返り、身につけた「言葉 の力」を確かめ、これからの学習に生かそ うという意識を高める。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、 助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い 方、句読点の打ち方を理解して、文や 文章の中で使っている。また、平仮名 及び片仮名を書いている。(1)ウ ・身近なことを表す語句の量を増し、文 章の中で使うとともに、言葉には意味 による語句のまとまりがあることに気づ き、語彙を豊かにしている。(1)オ <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「書くこと」において、経験したことなど から書くことを見つけ、必要な事柄を 集めたり確かめたりして、伝えたいこと を明確にしている。B(1)ア ・「書くこと」において、語と語や文と文と の続き方に注意しながら、内容のまと まりが分かるように書き表し方を工夫し ている。B(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで動植物の様子を観察して記録 し、学習の見通しを持って友達に伝え る文章を書こうとしている。 	・町にあるものを 観察する。
10	<p>ひらがなをつかおう 1</p> <p>1時間(書1) 教科書:下巻 P.42</p>	<p>●助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解 して、平仮名を文の中で正しく使うことがで きる。</p> <p>◇平仮名を正しく書く。</p> <hr/> <p>1 単元の学習課題を確かめる。</p> <p>2 助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を確 かめ、平仮名を正しく書く。</p> <p>3 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い 方を理解して、文の中で使っている。(1) ウ <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、文章を読み返す 習慣をつけるとともに、間違いを正し たり、語と語との続き方を確かめたりし ている。B(1)エ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで助詞の「は」、「へ」及び「を」の 使い方を確かめ、学習課題に沿って 文の中で平仮名を正しく使おうとして いる。 	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
10 ～ 11	ふねのせつめいをよもう いろいろなふね 7時間(読7) 教科書:下巻 P.43～51 【言葉の力】 せつめいの文しょうをよむ ----- 既習事項との関連 事柄の順序を考えながら読 み、文章の中の重要な語や 文を選び出す。(1上「どうや ってみをまもるのかな」)	●いろいろな船の、役目と造りを考えることが できる。 ◇説明的な文章を読み、分かったことをまとめ て伝え合う。C(2)ア ----- 見通す 1 単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 「いろいろなふね」を読んで、書いてあるこ とを確かめる。 3 船の役目と造りを考える。 4 読んで考えたことを伝え合う。 振り返る 5 船の役目と造りを確かめることができたか を振り返り、身につけた「言葉の力」を確か め、これからの学習に生かそうという意識 を高める。	【知・技】 ・共通、相違、事柄の順序など情報と情 報との関係について理解している。(2) ア 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序など を考えながら、内容の大体を捉えてい る。C(1)ア ◎「読むこと」において、文章の中の重要 な語や文を考えて選び出している。 C(1)ウ 【主】 ・進んで文章の中の重要な語や文を考 えて文章を読み、学習の見通しを持 って、読んで分かったことをまとめよう としている。	
11	「のりものカード」をつくら う 8時間(書8) 教科書:下巻 P.52～55 【言葉の力】 しりたいことをしらべてかく	●知りたいことについて本で調べて、「のりも のカード」を作ることができる。 ◇乗り物について調べたことをまとめる。B(2) ア ----- 見通す 1 単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 乗り物について調べる。 3 「のりものカード」を作る。 振り返る 4 乗り物について調べて書くとき、どのよう なことに気をつけたかを振り返り、身につ けた「言葉の力」を確かめ、これからの学 習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・事柄の順序など、情報と情報との関係 について理解している。(2)ア 【思・判・表】 ◎「書くこと」において、経験したことや想 像したことなどから書くことを見つけ、 必要な事柄を集めたり確かめたりし て、伝えたいことを明確にしている。 B(1)ア ・「書くこと」において、自分の思いや考 えが明確になるように、事柄の順序に 沿って簡単な構成を考えている。B(1) イ 【主】 ・進んで乗り物について調べて伝えたい ことを明確にし、学習の見通しを持 って、「のりものカード」を作ろうとして いる。	・さまざまなことを 本で調べる。
11	まとめてよぶことば 3時間(知技2書1) 教科書:下巻 P.56～57 ----- 既習事項との関連 「ふね」に関する上位語・下 位語を知る(1下「いろいろな ふね」)	●意味による語句のまとまりや、まとめて呼ぶ 言葉を理解して、語彙を豊かにすることがで きる。 ----- 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通し を持つ。 2 仲間になる言葉やまとめて呼ぶ言葉を集 めたり分類したりする。 3 それらの言葉を使った文を作り、互いに読 み合う。 4 学習を振り返り、意味による語句のまとまり やまとめて呼ぶ言葉についての理解を確 かめる。	【知・技】 ◎身近なことを表す語句の量を増すとと もに、言葉には意味による語句のまと まりがあることに気づき、語彙を豊かに している。(1)オ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語との続き方 に注意している。B(1)ウ 【主】 ・進んで意味による語句のまとまりにつ いて理解し、学習課題に沿って、まと まりを表す言葉を使って文を作ろうと している。	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
11	すきなきょうかをはなそう 5時間(話聞5) 教科書:下巻 P.58~61 【言葉の力】 こえの大きさやはなすはやさに気をつける 既習事項との関連 報告したいことをみんなの前で話す。(1上「はなしたいなきたいたい」)	●声の大きさや話す速さに気をつけて話すことができる。 ◇伝えたいことを話したり、それを聞いて感想を述べたりする。A(2)ア 見通す 1 既習事項を確かめ、単元の見通しを持つ。 取り組む 2 隣の友達に話す。 3 みんなの前で話す。 振り返る 4 声の大きさや話す速さをどのように変えて話したかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。A(1)ア ◎「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。A(1)ウ 【主】 ・進んで声の大きさや話す速さに気をつけながら、学習の見通しを持って伝えたいことを話したり、それを聞いて感想を述べたりしようとしている。	・考えたことをみんなに話す。
11	ことばであそぼう 2時間(知技2) 教科書:下巻 P.62~63 既習事項との関連 しりとりなどを通して、語彙を豊かにする(1上「ことばあそび」)	●言葉遊びを通して言葉の豊かさに気づくことができる。 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 回文やだじゃれ、折句などの言葉遊びを楽しんで、自分でも作って交流する。 3 学習を振り返り、言葉遊びを通して言葉の豊かさについて気づいたことを確かめる。	【知・技】 ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ 【主】 ・言葉遊びを通して進んで言葉の豊かさに気づき、学習課題に沿って言葉遊びを楽しもうとしている。	
11	おもい出してかこう 10時間(書10) 教科書:下巻 P.64~67 【言葉の力】 じゅんじよに気をつけてかく	●順序に気をつけて、したことを伝える文章を書くことができる。 ◇経験したことを報告する文章を書く。B(2)ア 見通す 1 単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 思い出したことを書く。 3 文章を読み合う。 振り返る 4 したことを伝えるために、どのようなことに気をつけたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思・判・表】 ◎「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。B(1)イ ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。B(1)ウ 【主】 ・進んで事柄の順序に気をつけながら文章の構成を考え、経験したことを報告する文章を書こうとしている。	・学校行事での経験を家の人に伝える。
11	ひらがなをつかおう 2 1時間(書1) 教科書:下巻 P.68	●絵に合うように、平仮名を正しく書くことができる。 ◇絵を見て正しい平仮名を書く。 1 単元の学習課題を確かめる。 2 拗音、促音、撥音などの表記を確かめ、平仮名を正しく書く。 3 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ◎拗音、促音、撥音などの表記を理解して、平仮名を書いている。(1)ウ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語との続き方を確かめたりしている。B(1)エ 【主】 ・進んで拗音、促音、撥音などの表記を確かめ、学習課題に沿って正しい平仮名を書こうとしている。	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
11 ～ 12	こえに出してよもう おとうとねずみチロ 9時間(読9) 教科書:下巻 P.69～82 【言葉の力】 人ぶつのようにすをおもいうかべる ----- 既習事項との関連 人物の行動を想像しながら読み、内容や感想などを伝え合ったり演じたりする(1上「かいがら」)	●人物の様子を思い浮かべながら、お話を声に出して読むことができる。 ◇物語を読み、内容や感想を伝え合う。C(2)イ 見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 「おとうとねずみチロ」を読み、人物の行動や、どんな人物がどんなことをしたか確かめる。 3 チロの様子を考える。 4 物語の中の好きなところを選んで読む。 振り返る 5 チロの様子を伝えるために、どんな読み方をしたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク 【思・判・表】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。C(1)エ 【主】 ・進んで人物の様子を思い浮かべながら、学習の見通しを持ってお話の内容や感想を伝え合おうとしている。	
12	かん字をつかおう 1 1時間(書1) 教科書:下巻 P.83	●文の内容に沿って漢字を正しく書くことができる。 ◇漢字を文の中で正しく書く。 1 単元の学習課題を確かめる。 2 文の内容に沿って漢字を正しく書く。 3 学習を振り返り、漢字の正しい書き方を確かめる。	【知・技】 ◎第1学年に配当されている漢字を書き、文の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語との続き方を確かめたりしている。B(1)エ 【主】 ・進んで語と語の続き方を確かめながら、学習課題に沿って漢字を文の中で正しく書こうとしている。	
12	すきなおはなしはなにか 6時間(読6) 教科書:下巻 P.84～87 既習事項との関連 これまでに読んだ本を振り返る(1上「としょかんはどんなところ」1下「一ねんせいのほんだな」)	●好きなお話について友達と伝え合うを通して、多様な本があることを知り、読書に親しむことができる。 ◇本を読み、自分の好きなお話について、内容や感想を伝え合う。C(2)イ 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 今までに読んだ本を振り返り、友達に紹介したい好きなお話を決める。 3 「しょうかいカード」を書く。 4 カードをもとに本を紹介し合う。 5 学習を振り返り、友達が紹介した本やP.86～87で紹介している本などを手がかりにして、これからの読書生活に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ 【思・判・表】 ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことを共有している。C(1)カ 【主】 ・進んで読書に親しみ、今までの学習を生かして、好きなお話の内容や感想を友達と伝え合おうとしている。	・生活の中の読書に生かす。
1	しをよもう みみずのたいそう 2時間(読2) 教科書:下巻 P.88～89 既習事項との関連 語のまとまりに気をつけながら、内容の大体を捉えて、詩を音読する(1上「あるけあるけ」き)	●詩を音読し、詩に描かれていることを具体的に想像しながら言葉の響きやリズムを楽しむことができる。 ◇詩を読んで、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする。C(2)イ 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 様子を想像して読み、好きなところや読んだ感想を発表し合う。 3 全員で読んだり友達と交代して読んだりするなど読み方を工夫して、詩を楽しむ。 4 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク 【思・判・表】 ◎「読むこと」において、詩の内容と自分の体験とを結び付けて感想を持っている。C(1)オ 【主】 ・進んで詩に描かれていることを具体的に想像しながら言葉の響きやリズムを楽しみ、学習の見通しを持って、詩を音読しようとしている。	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
1	むかしばなしをたのしもう 5時間(読5) 教科書:下巻 P.90～93	●昔話に親しみ、おもしろいと思ったところを紹介し合うことができる。 ◇読み聞かせを聞いたり自分で読んだりして、内容や感想を伝え合う。C(2)イ ----- 1 単元の学習の見通しを持つ。 2 付録教材「花さかじいさん」(P146)などの読み聞かせを聞いて、昔話の独特な語り口調や展開などを楽しむ。 3 興味を持った昔話の本を探して、読み聞かせを聞いたり自分で読んだりする。 4 これまでに読んだ昔話の中からおもしろかったものを選んで、好きなところを紹介し合う。 5 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3)ア 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。C(1)カ 【主】 ・進んで昔話に親しみ、学習課題に沿って、昔話のおもしろかったところを紹介し合おうとしている。	
1	おはなしをかこう 10時間(書10) 教科書:下巻 P.94～99 【言葉の力】 人ぶつをかながえておはなしをかく	●お話に出てくる人物を考えて、自分だけのお話を書くことができる。 ◇昔話に倣って、簡単なお話を作る。B(2)ウ ----- 見通す 1 単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 お話に出てくる人物を考える。 3 お話を書く。 4 お話を読み合う。 振り返る 5 どんな人物を考えてお話を書いたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使っている。(1)ウ 【思・判・表】 ◎「書くこと」において、想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。B(1)オ 【主】 ・進んでお話に出てくる人物について考え、学習の見通しを持って、昔話に倣って簡単なお話を作ろうとしている。	・お話を読んだり書いたりする。
1	かたかなのかたち 3時間(知技2書1) 教科書:下巻 P.100～101 既習事項との関連 片仮名を正しく読んだり書いたりする(1下「かたかなをかこう」)	●字形の似た文字との違いに注意しながら、片仮名の言葉を文の中で使うことができる。 ----- 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 字形が似ている平仮名と片仮名を比べて、違いに注意しながら書く。 3 字形が似ている片仮名を比べて、違いに注意しながら書いたり、片仮名を使って文を作ったりする。 4 学習を振り返り、片仮名の字形についての理解を確かめる。	【知・技】 ◎平仮名や片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(1)ウ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ 【主】 ・進んで片仮名の字形について理解し、字形の似た文字との違いに注意しながら、片仮名を文の中で使おうとしている。	
1	かん字をつかおう 2 1時間(書1) 教科書:下巻 P.102	●文の内容に沿って漢字を正しく書くことができる。 ◇漢字を文の中で正しく書く。 ----- 1 単元の学習課題を確かめる。 2 文の内容に沿って漢字を正しく書く。 3 学習を振り返り、漢字の正しい書き方を確かめる。	【知・技】 ◎第1学年に担当されている漢字を書き、文の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語との続き方を確かめたりしている。B(1)エ 【主】 ・進んで語と語の続き方を確かめながら、学習課題に沿って漢字を文の中で正しく書こうとしている。	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
1 ～ 2	ちがいをかんがえよう 子どもをまもるどうぶつたち 10時間(読10) 教科書:下巻P.103～113 【言葉の力】 くらべてよむ 既習事項との関連 船の役目と造りを考えて読む。(1下「いろいろなふね」)	●動物たちの子どもの守り方の違いを、比べて考えることができる。 ◇図鑑や科学的な読み物などを読み、分かったことなどを伝える。C(2)ウ 見通す 1 単元の学習の見通しをもつ。 取り組む 2 「子どもをまもるどうぶつたち」を読み、書いてあることを確かめる。 3 子どもの守り方の違いを比べる。 4 考えたことを話し合う。 振り返る 5 比べて読むとどんなことが分かったかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中の重要な語と文を考えて選び出している。C(1)ウ ◎「読むこと」において、文章を読んで分かったことを共有している。C(1)カ 【主】 ・進んで文章を読んで、動物たちの子どもの守り方の違いを比べ、学習の見通しを持って考えたことを伝え合おうとしている。	
2	ことばをあつめよう 3時間(知技1書2) 教科書:下巻P.114～115 既習事項との関連 「…を～。」の型で文を書く(1上『を』『へ』をつかおう)、意味による語句のまとまりがあることを知る(1下「まとめてよぶことば」)	●意味による語句のまとまりを意識しながら言葉を集め、文の中で使うことができる。 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 教科書の言葉をさまざまにつなげて文を作る。 3 それぞれの囲みに入る言葉を増やして文を作り、発表する。 4 学習を振り返り、言葉をつないで文を作ることへの理解を確かめる。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア ◎身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ 【主】 ・意味による語句のまとまりを意識しながら、積極的に、身近なことを表す語句の量を増し、学習課題に沿って、集めた言葉をつないで文を作ろうとしている。	
2	小学校のことをしょうかいしよう 7時間(話聞7) 教科書:下巻P.116～119 【言葉の力】 できごとのじゅんごとに話す 既習事項との関連 声の大きさや話す速さに気をつける(1下「すきな きょうかを はなそう」)	●一年間の出来事を順に話して、小学校のことを紹介することができる。 ◇紹介したいことを話す。A(2)ア 見通す 1 既習事項を確かめ、単元の見通しを持つ。 取り組む 2 話したいことを考える。 3 話す練習をする。 4 みんなの前で話す。 振り返る 5 どんなことに気をつけて、一年間の出来事を話したかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。A(1)ア ◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。A(1)イ 【主】 ・進んで話す事柄の順序に気をつけながら、学習の見通しを持って紹介したいことを話そうとしている。	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
2	かん字をつかおう 3 1時間(書1) 教科書:下巻 P.120	●文の内容に沿って漢字を正しく書くことができる。 ◇漢字を文の中で正しく書く。 1 単元の学習課題を確かめる。 2 文の内容に沿って漢字を正しく書く。 3 学習を振り返り、漢字の正しい書き方を確かめる。	【知・技】 ◎第1学年に担当されている漢字を書き、文の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語との続き方を確かめたりしている。B(1)エ 【主】 ・進んで語と語の続き方を確かめながら、学習課題に沿って漢字を文の中で正しく書こうとしている。	
2	すきなところをつたえよう スイミー 11時間(読11) 教科書:下巻 P.121～137 【言葉の力】 おはなしのすきなところを見つける 既習事項との関連 人物の行動を想像しながら読み、内容や感想などを伝え合ったり演じたりする(1上「かいがら」)	●物語の好きなところを見つけて、好きなわけを伝え合うことができる。 ◇物語を読み、感想を伝え合う。C(2)イ 見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 「スイミー」を読んで、どんな物語かを確認める。 3 好きなところを見つける。 4 好きなところを伝え合う。 振り返る 5 物語のどんなところが好きか、どうして好きだと思えるかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク 【思・判・表】 ◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持っている。C(1)オ ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。C(1)カ 【主】 ・進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想を持ち、学習の見通しを持って物語の好きなところを伝え合おうとしている。	
3	かたちのにているかん字 3時間(知技1書2) 教科書:下巻 P.138～139 既習事項との関連 字形の似た文字に注意して、正しい字形で書く(1下「かたかなのかたち」)	●漢字の字形を理解し、正しく読み書きすることができる。 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 字形の似た漢字を比べて、違いに注意して書く。 3 文の中で誤って使われている漢字を見つけて、正しい漢字に直す。 4 学習を振り返り、漢字の字形についての理解を確かめる。	【知・技】 ◎第1学年に担当されている漢字を読んだり、文や文章の中で使ったりしている。(1)エ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正している。B(1)エ 【主】 ・進んで、漢字の字形の違いを理解し、学習課題に沿って、文の中で誤って使われている漢字を正そうとしている。	
3	一年かんのおもいでブック 9時間(書9) 教科書:下巻 P.140～143 【ことばの力】 かいた文しょうをよみかえす	●いちばん心に残っている出来事について、家の人に伝える文章を書くことができる。 ◇いちばん心に残っている出来事を報告する文章を書く。B(2)ア 見通す 1 単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 出来事を選ぶ。 3 文章を読み合う。 振り返る 4 新しく書いた文章は、どんなところがよくなったかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。(1)キ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。B(1)エ ◎「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。B(1)オ 【主】 ・進んで自分の文章の内容や表現のよいところを見つけ、学習の見通しを持って、いちばん心に残っている出来事を詳しく報告する文章を書こうとしている。	・2年生になって頑張りたいことを考える。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
3	<p>かん字をつかおう 4</p> <p>1 時間(書1) 教科書:下巻 P.144</p>	<p>●文の内容に沿って漢字を正しく書くことができる。</p> <p>◇漢字を文や文章の中で正しく書く。</p> <p>-----</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 単元の学習課題を確かめる。 2 文の内容に沿って漢字を書く。 3 学習を振り返り、漢字の正しい書き方を確かめる。 	<p>【知・技】</p> <p>◎第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語との続き方を確かめたりしている。B(1)エ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで語と語の続き方を確かめながら、学習課題に沿って漢字を文や文章の中で正しく書こうとしている。 	